

平成29年度 学校評価総括表

教育目標		日本国憲法、教育基本法及び学校教育基本法に定められた教育の基本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性をそなえた生徒の育成を目指す。			総合評価	
運営方針		生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力ある学校作りのために教職員が一丸となって教育活動に取り組む。				
平成28年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標		B	
キャリア教育の視点から教育活動全般を見直した。基本的生活習慣の定着や規範意識の向上については、一定の成果はみられるが今後も引き続き「挨拶励行、正しい身だしなみ、時間厳守」の3項目について重点的に取り組む必要がある。 また、学習面においては、教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲向上に努めるとともに、計画的に生徒の学力向上や検定取得に向けた取組を深め、生徒が主体的に進路決定できる体制の整備に努める。		社会で通用する人材の育成	確かな学力の育成			
			豊かな人間性の育成			
			たくましい心身の育成			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 および改善方策
学習指導	①基礎学力の充実	BasicStudyタイムは継続実施。さらに内容の充実を図る。また、自ら学び自ら考える主体的な学習姿勢を育てるために、宿題・課題の内容の充実を図る。	B	学年やクラスによってBSの時間に温度差があるため、基礎学力の向上を効率よく行っているとは言えない。使用する教材も工夫が必要である。	今後も継続して実施するが、課題や補習の充実を図り、生徒に定着させるよう各学年で連携して取り組む。	基礎学力定着に向けた教育内容の共通理解。
	②授業力の向上	分かる授業の実践及び授業の工夫改善のため、年2回の公開授業並びに研究協議の実施に努める。また観点別評価について考察し、成績評価の在り方を検討する。	B			
生活指導	①礼法・マナー・身だしなみ等に対する意識の向上	登下校時や授業の始業終業時等を通じて、挨拶・言葉遣い・身だしなみ等についての指導を継続し、意識の向上を図る。	B	登下校時の服装等で注意をされる生徒は少ない。女子生徒の化粧等が少しづつ見られるようになってきているため、服装だけでなく一歩進んだ身だしなみの指導が必要である。	身だしなみについては、校門等で指導を行うことにより、一定の成果が見られた時期もあった。こうした取り組みを通じて、定着を図っていく。	社会に出て必要なことを学校で学ばせることは重要。
	②基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣を身に付けさせることにより、遅刻や欠席・早退を減らす。遅刻については年間500以下を目標とし、時間を守る意識の向上も図る。	C			
進路指導	①就職先の開拓	企業との信頼関係を大切にし、情報収集と求人への依頼に努める。30社以上の企業を訪問する。	A	40社近くの企業を訪問し、求人の依頼を行った。今年度は予想以上の求人をいただいたが、製造・福祉・理美容系の職種が例年以上に多かった。	事務・販売・営業系などの本校の専門性を活かせる職種の求人を多くいただけるように企業への依頼に力を入れていきたい。	
	②多様な入試制度の活用	専門科目で取得した資格を活用した入試制度を積極的に利用し、進学者数の増加を目指す。	B			
人権教育	①性的マイノリティー問題に対する職員・生徒の意識の向上	指導案を作成し、事前研修を行い、職員の意識の確認を行う。それをもとにHR展開を行い、生徒のマイノリティー問題の意識の向上を図る。	B	全体的に、肯定的、寛容的な反応が目立ち、多様性を尊重する態度につながれたと考えられる。性的マイノリティー問題に直面する生徒を想定した対応が職員に求められる。	統計上20人に1人という数字が出ている。性的マイノリティー問題の現実を認識し、様々な性のあり方について、職員の理解を深め、該当する生徒が出てきた場合の対応に備える。	SNSコミュニケーションにおける指導について小中高校及び警察との連携が必要。
	②SNSに関わる人権問題の意識の向上	指導案を作成し、HRを実施する。生徒指導部とも連携を図り、今後の学校生活にどのように活かせるかを考えさせる。	B			

文化活動	①読書習慣の確立	親しみやすく魅力的な図書室作りに努め、1日の利用者30名以上を目標として、読書習慣の確立を目指す。	B	図書委員会で作成した本の紹介カードの展示や企画展示等を行い、生徒の興味・関心をひく努力を継続して行った。1日の平均図書館利用者は37.5名であった。	各種の展示・イベント等を継続して行い、合わせて図書館の内容の、さらなる充実をはかる。	
	②文化祭の充実・向上	生徒会・学年・文化部との連携を密にしながら、全校体制で文化祭実施にあたり、積極的な生徒の参加を促す。	A	B	生徒会等と連携を行いながら、より良い文化祭を目指して生徒とともに努力する事が出来た。	生徒の意欲を引き出し、協調性や企画力を養う事が出来る文化祭への取り組みを継続したい。
	③地域との連携	「桜井冬のプチ文化祭」等を通じて、地域及び他校との連携を深める。	B	「桜井本町通り街づくり協議会」等と交流を深め、地域との共通理解を深める事が出来た。他校との連携については、課題が残った。	継続して地域との連携、交流に努めたい。他校との連携については、時間的な制約もあり、難しい部分もあるが、出来る事を模索したい。	
体育活動・健康教育	①体力の向上と部活動の活性化	トレーニング方法の工夫や事前指導を実施し体カテストで県平均を4種目以上上回る。女子の運動部加入率25%以上を目指す。	B	B	いずれの学年も目標を達成できていない。ただ、2・3年の経年変化もほぼすべての種目で前年を上回っている。女子の運動部加入率は18.8%で目標達成には至らず。	授業で行うトレーニング内容を今年度一部変更した。来年度に成果が表れるか注目したい。運動部加入率の向上については今後も継続して取り組みたい。
	②保健指導の推進	教科保健の授業や保健だよりを通して、生徒の健康に対する意識を高める。各種検診の精検受診率20%以上を目指す。	B	B	精検受診率は歯科を除いて目標を達成。歯科についても昨年度受診率は上回った。	精検受診率の向上には保護者の協力が不可欠なので保健だよりが必ず保護者の目に届くよう配布方法を工夫したい。
	③食育の充実	教科保健の授業や食育だよりを通して、食育の充実を図る。朝食摂取率75%以上を目指す。	C		朝食取得率は69.1%で昨年より約1%下がった。	定期的に食育だよりを発行しているが、保護者の目に届いているか疑問である。朝食の必要性について保護者に伝わるよう工夫したい。
環境整備活動	①環境美化を通じて公共心の育成	教室やトイレなど共用箇所について、正しく使用する必要性を折に触れて生徒に展開する。	B	B	多少の改善点は見られるが、トイレの使用方法に関しては本年度も問題点が多かった。ペーパーホルダーが使いにくいなど使用器材にも問題があるのではないか。	トイレ清掃の仕方についても指導しながら、公共物の大切さを粘り強く注意喚起していく。
	②防災意識の向上	実践的な防災訓練を企画・実施する。	B		生徒の参加姿勢はおおむね良かったが、避難梯子の使用時に見世物的なものになってしまった。	学年では煙の危険性や救助袋の有用性を説明しながら、展開したが次年度はこれを全学年に広げていく。
商業科	①検定取得の向上	各検定において補習講座などを実施し、生徒の進路実現に結びつくための指導を行う。	B	B	検定前補習に関しては多少時間が短い部分もあるが一定成果はあった。ただ生徒の進路に対しての意識や学力の隔たりも大きく受験級選定に関しての課題があった。	長期休暇を活用した単元ごとの振り返りが必要でいかに生徒のやる気を引き出すか。また学年が上がっても継続指導の方がより効果的な指導に結びつく。
	②実学教育の充実	実社会で通用するために、販売実習や商品開発などの体験的な学習の充実を図る。	B		会計ビジネス科・流通ビジネス科では実学教育に結びつきやすいが情ビについては取組が難しかった。各販売実習時におけるマナー指導の徹底ができなかったが委託販売で年間を通じた活動ができたことは良かった。	たまつえ活動生徒・場所の確保や空き店舗活用に関する準備、各学科で取り組むべきの実学教育に向けて商業科内で共通理解を図りながら進めていく。
情報科	①学習指導の充実	指導内容を精選し、生徒の実態に対応した授業の進め方を工夫して丁寧な指導を行う。	A	B	授業の進め方についての細かい工夫により、生徒が主体的に考える学習態度が形成されている。	継続して、指導内容の精選、グループワークのさらなる活用、実践を重視した授業展開など、よりよい授業展開の工夫に努める。
	②国家試験、検定合格率の向上	各学年の各検定合格率70%以上を目指し、補習等を充実させる。	B		検定の種類によっては、90%を超える合格率を超えるなど、成果があったものの、国家資格など、前年度を超えつつも、目標には届かないものもあった。	継続して、検定の種類、受験級の選定、検定に向けた学習や補習の内容と実施時期などを検討し、改善していく。

検定や発表の場など、生徒の意識向上につながっている。
桜井市まちづくりにも貢献しており、さらなる充実を期待。

- A: 十分である
B: ほぼ十分である
C: あまり十分でない